

7/11 木

労働者“強ストレス下”5割超

厚労省調査

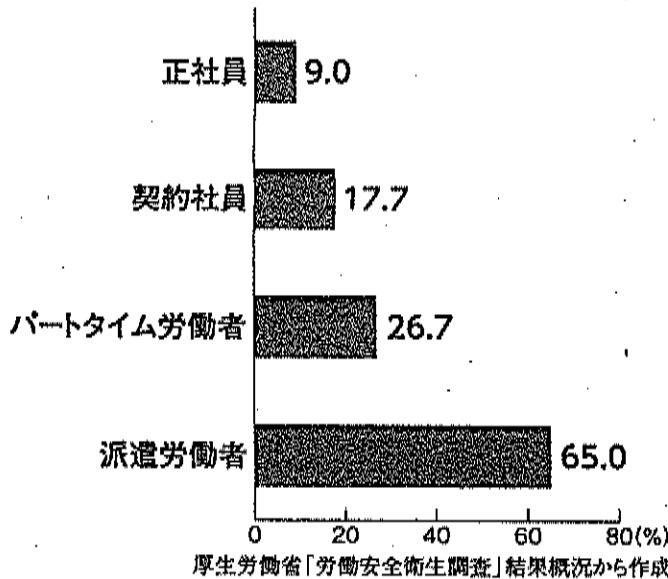
敗、責任の発生等」が最多となりました。セクハ「人間関係」をあげたのは男性で22・6%、女性で29・1%と6歳以上の差がありました。

労働者の53・3%が仕事上で強いストレスや不安を感じて、「うるさい」が、厚生労働省が5月に発表した2021年の「労働安全衛生調査」の結果の概況で分かりました。年代では30代が59・5%と最も高く、50代、40代が続きました。

労働者の53・3%が仕事上で強いストレスや不安を感じて、「うるさい」が、厚生労働省が5月に発表した2021年の「労働安全衛生調査」の結果の概況で分かりました。年代では30代が59・5%と最も高く、50代、40代が続きました。

派遣の6割超 「安定性」原因

■「雇用の安定性」をストレスと回答した割合



また、「雇用の安定性」をストレス原因としたのは、正社員では9%などとまりましたが、契約社員では17・7%、パートタイム労働者で26・7%、派遣労働者で65%と大きな開きがありました。

メンタルヘルスの不調によって過去一年間に1カ月以上休業もしくは退職した労働者がいた事業所は10・1%でした。

労働者の「ほとんど毎日」「ときどき」を合わせて20・7%ありました。職場で受動喫煙がある労働者は「ほとんど毎日」「ときどき」を含ませて20・7%ありました。

労働者の41・1%が「不快に感じる」と、体調が悪くなることがある」と回答しました。

ストレスの内容では「仕事量」が43・2%で最多。ただ、20歳未満と60歳以上では「仕事の失